



会見で意気込みを語る、左から今井選手、六平選手、安選手



六平 光成 選手

クリストロアサッカークラブ→FC東京U-15深川→前橋育英高。
174cm、62kg。1991年1月16日生まれ。MF。

突進する六平選手、後方から2人の選手が必死に追いかける

サッカー部 六平選手



Jリーグ入り



ブラジルW杯出場

中央大学サッカー部から期待の主力3選手がそろってJリーグ入りする。

同時期に3選手がプロへ進むのは中大史上初めてだ。

3人は来春からプロ選手として、2014年ワールドカップ・ブラジル大会出場を目指す。

緊張の3選手

六平光成＝むさか＝(経済学部4年)、安柄俊＝あんびょんじゅん＝(同4年)、今井智基(商学部4年)各選手は8月21日、中大多摩キャンパスCスクエアで行われた記者会見に臨んだ。FW安選手は川崎フロンターレへ。DF今井選手は大宮アルディージャへ。MF六平選手は清水エスパルスへ、それぞれ入団が内定、この日は内定報告会だった。

中央大学のバックボードを背にマイクを握った3人はやや緊張した表情。会

場には取材のマスコミ関係者のほか学生やサポーター、家族らが詰め掛けていた。

六平選手は「プロ入りしたら最初が肝心だと思います。結果を残したい」とアピール。今井選手は「大学1年のころは(控えの)Bチームでしたが、くさらずに精いっぱいやってきてよかった。プロではしっかり守って攻撃にも参加したい」と苦しい経験を明かしながら抱負を述べた。安選手は「川崎は風間監督になって、より攻撃的なサッカーをする。ボールをもらう前の動きをよくしたい」とゴールへの意欲を見せた。

プロの道

マスコミの取材が殺到したのは六平選手だ。父親は個性派俳優、名脇役で知られる六平直政さん(58)。父はサッカー観戦でも際立つ存在で、「スタンドからよく声を張り上げています。ヤジもたまに飛ばしています。インパクトがありますよ」(六平光成選手)。

息子(次男)ならずとも熱烈応援をしてくれるプレーヤーだ。「中大MF、大学No.1司令塔」(スポーツニッポン5月2日付)との高い評価。群馬・前橋育英高時代に全国高校選手権ベスト4。高校



今井 智基 選手

市川KIFC→市川カネツカサッカークラブ→大宮アルディージャユース。
178cm、77kg。1990年11月29日生まれ。DF。



安 柄俊 選手

横川武蔵野ジュニア→同ユース、東京朝鮮高。
183cm、68kg。1990年5月22日生まれ。FW。

中盤でチャンスをうかがう今井選手

競い合う安選手、さあ突破口を開け

今井選手 安選手

目指す

卒業時に早くもプロから勧誘された。中大3年ではユニバーシアード深圳(中国)で優勝した。日本代表のキャリアは3度。まず2009年にU-18、翌2010年はU-19、2011年がユニバ。ことしは関東大学選抜メンバーに入った。主要な大会に必ずといっていいほど顔を出している。今回のプロ入りには複数クラブからのオファーがあった。

「自分の特長であるドリブルや2列目から飛び出して、得点に絡む動きが清水エスパルスのパスサッカーにいかせる」

躍動感のあるコメントは、清水の公式HPを通じてサポーターへ届けられた。中大

の会見でも元気がよかった。「スタメンを獲りたい。獲る自信? あります」。質問する記者を見て明言した。同世代の扇原貴宏選手(セレッソ大阪)はロンドン五輪代表、自らは代表から漏れた。「ロンドンへ行けなかったのは悔しい。プロ入りして、しっかりやって、代表になる」
思いは2年後のブラジルW杯へ。

被災地で新たな決意

ことしからゼネラルマネジャー(GM)に就任した前監督の佐藤健GM。プロ入りする3人へ、はなむけの言葉は示唆に富んでいた。「合宿で宮城県名取市近郊の港町、関上(ゆりあげ)に行きま



宮城合宿で子供たちと笑顔で記念撮影に収まる中大サッカー部選手たち(提供=中大サッカー部)

した。被災して家が一軒もない」。東日本大震災の傷跡は1年余たっても癒えない…。

「バスのなかでワイワイやっていた選手たちは、その光景を見た途端しゃべらなくなった。選手は自分の立場と、この港町で生活している人たちの立場が分かったのだと思う。被災地のことを考えてプレーしてほしい」

「宮城合宿」は同県出身の佐藤GMが地元関係者と協力して6年ほど前から展開している。被災した現地のために、昨年は選手が自発的に募金活動を行い、サッカー教室などで親しくなった地元住民らにサッカーボールやウエアなどを贈った。

被災後現地に入るのはことしが初めてだった。約80人の選手が2班に分かれてバスに乗り、被災地を見た時、選手が瞬く間に変わった。それを佐藤GMは会見場で話した。地元の人には「随分きれいになった」と言うものの、選手80人が目の当たりにした情景は想像以上の衝撃だったのだろう。佐藤GMが続ける。

サポーターのために



「私が願うのはサポーターを大事にする。おかねを頂いてサッカーができる。サポーターはおかねを払って来てくれる。選手に言っています。指が痛くなるまでサインをしる。これは彼らの先輩の中村憲剛、大岩一貫らにも話してきた」

選手たちは背筋を伸ばして、まっすぐ前を向いたままだ。日本代表や五輪代表候補の先輩たちが通ってきた道をこ

れから歩む。選手たちの無言のシーンは、心に誓う時間だったのだろう。

関東大学リーグは前期を終えて、中大は7勝3分1敗の好成績、専修大に続いて2位に付けている。

部の歴史は輝かしい。全日本大学選手権大会を2008年度に制するなど優勝8度（準優勝7度）、関東大学1部リーグ優勝5度、天皇杯優勝2度を誇る強豪だ。

大学リーグ後期は9月15日に開幕した。11月25日の最終戦（予定）専大戦（味の素フィールド西が丘、旧西が丘サッカー場）まで熱戦を展開して

いる。

「大学の試合も大事。しっかりやります。フィニッシュの精度を高めていく」と六平選手。安選手は「得点が前期は少なかった（11試合、17点）が、後期は得点を多く挙げたい」と言い、今井選手がまとめた。「引き分けが3試合あった。後期は勝ちきる。そうすれば優勝が見えてきます」

白須真介監督は「大学でタイトルを取るため貢献し、さらに上を目指せ」とハッパをかけている。被災地のため、サポーターのため、中央大学のため。3選手がボールにくらいつく。



白須真介監督が見た3選手のプレースタイル



「安選手は、大学に入ってきたときからプロまでは行ける選手だと思っていました」

「今井選手は、入学時はFWだった。それを右サイドバック、後ろの選手にしたら存在感が出てきた」

「六平選手は、安選手と同じくプロ入りすると思っていた。中盤でゲームをつくり、安につなげる」

岸真清部長（商学部教授）の話



「中央大学から3人が同時にプロ入りするのは名誉なことです。3人それぞれの努力はもちろんですが、奥山主将をはじめ部生活や行動を共にした部員みんなの結晶であると思います。3人には今後、オリンピック代表、ワールドカップ代表になってもらいたい。日本代表や候補選手になった中大先輩の中村憲剛、大岩一貫両選手に続いてほしい」



… 会場に母の姿 …

会場には今井選手の家族が来ていた。プロのユニホームを着た姿は、初めて見るシーン。写真撮影OKのアナウンスに背中を押されて会場の後方から選手に近づき遠慮がちにシャッターを押していた。「よくがんばったと思います」と今井選手の母。「合宿選手ではなかったのに千葉の市川・行徳から2時間かけて通いました」



また女性サポーターも多く、記者会見終盤では選手が記念撮影に気軽に応じ、ツーショットの絵柄にもピースサインを添えていた。佐藤GMの“支えてくれる人たちを大切に”—この教えを実践していた。

ジーコの教え

佐藤GMはJ1鹿島アントラーズ出身。前身の住友金属時代にやってきたブラジル代表の名選手ジーコ（元日本代表監督、現トルコ監督）と親しくなった。「サポーターを大事にしている、一人ひとりにサインを丁寧にする。バス移動の発車時刻になってもサインをしている。とくに女性と子供には親切でした」と佐藤GM。中大選手にジーコの教えが伝授された。

海外でも活躍できるように

俳優 六平直政さん

「入団おめでとう。エスパルスにお世話になる以上、一生懸命練習してレギュラーを目指し、試合に出たらゴールやアシストを決めてください。日本代表、海外でも活躍できる選手になるよう、怪我には十分気をつけて頑張ってください。応援しています」



息子を精いっぱい応援する父親・六平さん



一問一答

プロ入りする選手3人とマスコミ記者との質疑応答は次の通り。学生記者2人がプロの記者に交じって質問した。

——Jリーグ内定おめでとうございます。

安選手、今井選手、六平選手。

今の心境を聞かせてください。

安選手 「これからも中央大学の名に恥じないようなプレーをしたいです」

今井選手 「プロに行っても頑張っていきたいです」

六平選手 「清水エスパルスは大学時代から自分のプレーを評価してくれたチームなので、とてもうれしいです」

——みなさんは、中央大学での4年間があったからこそ

Jリーグという夢に近づけたのだと思いますが、

中大サッカー生活を振り返って

安選手 「高校までは“きれいにプレーしよう”としていましたが、中大では“ゴールに貪欲なプレーをしよう”という意識が変わりました。佐藤GMや白須監督のおかげです」



今井選手 「1年生のころ選抜チームではなかったのですが、そこでくさらずに毎日練習することの大切さを学びました。中大ではポジションをフォワードからディフェンスに変更し、自分の強みが生かせるポジションを見つけられました」

六平選手 「1年生のときから試合に出させてもらっていたので、コンディション管理の重要性を学びました。人に頼ることなく自分で考えてプレーできるようになったと思います」



——Jリーグに入って対戦が楽しみな選手は

六平選手 「今となりに座っている、今井選手です」

今井選手 「安選手です」

安選手 「…今井君と六平君です」(会場は笑いに包まれた)

——中大サッカー一部で印象に残るエピソードを教えてください

(学生記者・福田の質問)

安選手 「1年生の1年間が心に残っています。自分に対する周りの指導も厳しい時期でしたし、練習も大変でした。叱られて成長できました。あれを乗り越えたから今があると思います」

今井選手 「2年生のとき、慶応大学との練習試合で当時の佐藤監督にたった10分で交代させられたことです。とても悔しかったですね」(笑い)

六平選手 「U-19の準々決勝で韓国に敗れて(翌年の)U-20W杯に出場できなかった試合がありました。あの時からサッカーに対する考え方が変わりました」

——3選手がそれぞれ思う中大のよさとはなんですか

(学生記者・石崎の質問)

今井選手 「オンとオフの切り替えが素晴らしいです。練習のときは真剣に、練習が終わったら、みんなでわいわいやっています」(笑い)

六平選手 「上下関係がなく、みんな仲がいいですね」

安選手 「2人と同じです(苦笑い)」

——Jリーグ内定が決まりましたが、白須監督が「在学中にタイトルを取ってほしい」と話していたように、関東リーグはまだまだ続きます。優勝するには何が大切ですか

安選手 「前期の中大は上位にはいりましたが、得点数が上位の中では劣ります。得点数を上げていきたいと思います」

今井選手 「引き分けの試合が多かった気がしました。後期は勝ちきる試合を増やせるようにしたいです」

六平選手 「前期はいい形で終わることができたので、後期はもっとチームのレベルを上げ、フィニッシュ面の精度を高めて点を取っていきたいです」

——最後にJリーグでの目標を聞かせてください

安選手 「中大で学んだ“ゴールに貪欲に”という言葉に胸に、川崎フロンターレの攻撃的なサッカーに入り、ボールをもらう前の動きをうまくしたいです」



今井選手 「大宮アルディージャは堅い守備からのカウンター攻撃が上手なチームです。僕はディフェンスの選手なので、まず無失点に貢献し、さらに攻撃でも存在が見せられたらいいなと思います」

六平選手 「これからは自分にとって勝負になると思います。切り替えをしっかりと、多くの試合に出たいです。また、今回のロンドンオリンピックには代表になれず、とても悔しい思いをしたので、代表入りできるように頑張ります」

(構成・学生記者 福田紗友里＝総合政策学部1年)

